

総論

| | | | | | | | | |
|-----------------------------------|-----|------|-------------------------------|------|--------|-----|--------------|--|
| 満点 | 50点 | 目標得点 | 37点 | 試験時間 | 60分 | 偏差値 | 71 | |
| 大問数 | 8 | 小問数 | 47 (うち1問は2つ解答を選択するので48解答数になる) | | | | | |
| 【解答形式】 | | 選択式 | 26/47問 | 記述式 | 20/47問 | 論述式 | 1/47問(34字以内) | |
| 【問題難易度】 | | C | 5/47問 | B | 15/47問 | A | 27/47問 | |
| ※問題難易度：C難問、B合否を分ける問題、A正答すべき問題、を示す | | | | | | | | |

Topics

- 1：選択式と記述式がほぼ半々。漢字など正確に筆記しなくてはならない。問題数などは例年並みだが、やや難問数が増加した。
- 2：図版・地図を使った問題が出題される。かつては史料問題も出題された。
- 3：30字程度で簡潔に歴史用語を説明する論述問題が出題される。

こんな力が求められる！

- 1：基本問題は絶対に正答する安定力が必要。Weekly Test では平均85点以上を取ることを目指そう。合否を分ける問題をいかに得点できるかが勝負になる。今年度は時事的問題も出題され、最新の用語集(2008年1月発行)でも対応できない内容もあった。しかし、お茶ゼミのテキストには記載されているので、注を含めて、しっかりテキストを精読することである。
- 2：日頃の学習で、資料集などに必ず目を通す習慣が大事である。少なくとも教科書に掲載されている図版や史料は身につけておくべきである。
- 3：論述対策として、テキストのMaster Trainingを精読する習慣をつける。特にMaster Trainingの問題文(第一文目)は書き起こすなどして、自分で説明文を作ってみるのも訓練になる。

参考図書

お茶ゼミテキスト、お茶ゼミ問題集、教科書、用語集、史料集・図説(地図が記載されているもの)

データ&全体傾向

[前年度(2008)合格者最低得点(3科目)] 132.5点(得点率 66.25%)

[前年度(2008)受験者平均点(世界史)] 32.74点

今年度は、昨年度に比べると大問数で1題増加したが、小問数では3問減少した。また論述問題の字数は増加したが、30字が34字に変わっただけで大きな変化ではない。昨年度に比べて難問数が増えたといえるが、全般的には標準的な問題が多いので、合格するには高得点をとることが求められる。ケアレスミスには要注意。例年、文学部の問題は良問が多かったが、今年度は問題内容の重複や選択肢の曖昧な表現など、難問というよりは悪問に近いものが増えた。そこで、今年度の問題よりも過去問を解いて、80%の得点率を目標に学習を進めよう。

出題内容は古代史～現代史まで幅広く出題される。特に古代史に関しては、かつては先史時代に関するもの、また昨年度と今年度は古代オリエントとヘレニズムに関するものが出題されている。これらの範囲は学習時期が早いので、受験間際になるとかえって知識が曖昧になっていたりする。受験直前に最終チェ

Benesse® お茶の水ゼミナール

ックをしておこう。地域では、朝鮮史・北方民族関係史といった現役高校生が不得意とする分野（特に朝鮮史は地図問題）から出題された。また文化史も頻出分野である。これらの範囲は後回しにしがちだが、基本的な知識を早期に定着させて、苦手意識を払拭するよう努めたい。「先手必勝」、弱点を克服して武器に変えよう。

入試問題は大学教授が作成するのが一般的。どこを専門とする教授がいるかを大学のパンフレットやホームページで調べておくと参考になる。例えば、早稲田文学部には、西洋史コースにシュメール史を専門とする教授・イギリス政治史を専門とする教授が、アジア史コースに朝鮮史と東北アジア史を専門とする教授・中国中世史を専門とする教授、美術史コースに仏教美術史を専門とする教授などがある。今年度の出題範囲と重ね合わせてみよう。

大問別分析

【I】

| | |
|--------------------------|------------------|
| 予想配点 6 / 50 点 | 時間配分の目安 6 / 60 分 |
| 出題分野・テーマ 古代オリエントを中心とする問題 | |

●小問別難易度&解答のポイント等 ※問題難易度：C難問、B 可否を分ける問題、A 正答すべき問題、を示す

設問 1（問題難易度 A）

「前 4 千年紀末」という時代で戸惑うかもしれないが、前 4 千年紀は前 4000 年～前 3001 年である。つまり、前 3000 年代だと考えればよい。また、「メソポタミアにおいて都市国家を成立」とあるのだから、シュメール人である。

設問 2（問題難易度 B）

外交文書とは「アマルナ文書」（用語集頻度①でマニアックだが、3 月期のテキストには記載されている）。したがって都市はテル=エル=アマルナで、正解は選択肢イ。

選択肢ロ：「アテン神官団」ではなく「アモン神官団」の勢力拡大を牽制するのが目的である。

選択肢ハ：ナイル上流のアスワン地方ではなく、メンフィスとテーベの間である。

選択肢ニ：テル=エル=アマルナに都を置いたのは、アメンホテプ 4 世の時代だけである。

設問 3（問題難易度 A）

セム系 3 民族（アラム、フェニキア、ヘブライ）の活動時期がほぼ同じであることがわかっていれば、消去法で即答できる。ヒクソスは前 18 世紀～前 16 世紀（前 2 千年紀半ば頃）に下エジプトを支配した民族。

設問 4（問題難易度 B）

ペルシア帝国とはアケメネス朝のこと。鑄造貨幣を発明したりディアを征服していることを想起して、選択肢ニを選べればよい。

選択肢イ：アケメネス朝の領域はインダス川流域までである。

選択肢ロ：マニ教の成立は 3 世紀で、ササン朝時代である。

選択肢ハ：アケメネス朝の異民族支配は寛容であった。また地方支配の根幹はサトラップ制。

設問 5（問題難易度 A）

これは基本問題。タレス、デモクリトス、ピタゴラスはイオニア自然哲学の代表。

設問 6（問題難易度 A）

これは基本問題。これを間違えるようでは、早稲田合格は危ぶまれる。

【Ⅱ】

| | |
|-----------------------|------------------|
| 予想配点 5 / 50 点 | 時間配分の目安 6 / 60 分 |
| 出題分野・テーマ 図版問題を含む仏教関連史 | |
| 使用されている資料 図版 | |

●小問別難易度&解答のポイント等 ※問題難易度：C難問、B可否を分ける問題、A正答すべき問題、を示す

(1) (問題難易度A)

仏教の発生地はマガダ国である。ちなみに同地でジャイナ教も成立した。

(2) (問題難易度A)

西域からの渡来僧で、鳩摩羅什と並ぶ人物だから、仏図澄。ブドチンガと答えても間違いではないが、鳩摩羅什をクマーラジーヴァと表記していないので、漢字表記した方がよい。

図版問題：いずれも教科書・資料集に掲載されている図版である。

日頃の学習において、資料などを確認する癖をつけていこう。

A (問題難易度B)

アジャンター壁画である。これは法隆寺金堂壁画との類似が指摘される有名な図版。

B (問題難易度B)

中国の石窟寺院であることはわかる。しかし、敦煌石窟か、雲崗石窟か、竜門石窟か。これは図版を見ていないと解けない。正解は雲崗石窟。

C (問題難易度B)

図版を知らなくても、「韓国慶州」にある石塔であることから、「仏国寺」までは解答できる。果たして、この石塔の名称「多宝塔」まで導けるかがカギとなる。

【Ⅲ】

| | |
|-------------------------|-------------------|
| 予想配点 9 / 50 点 | 時間配分の目安 10 / 60 分 |
| 出題分野・テーマ 地図理解を伴う朝鮮半島関連史 | |
| 使用されている資料 地図 | |

●小問別難易度&解答のポイント等 ※問題難易度：C難問、B可否を分ける問題、A正答すべき問題、を示す

設問 1

① (問題難易度A)

基本問題である。前漢武帝は李広利を大宛に派遣しているが、これは敦煌郡設置のあと。

張騫を大月氏へ派遣 (前 139 年) → 敦煌郡の設置 (前 121 年頃) → 李広利の派遣 (前 104 年)

② (問題難易度B)

「河西四郡」という語句はマニアックである。用語集では敦煌郡の説明文にある。ただし、3月期のテキストでは本文中に記載してある。

設問 2 (問題難易度A)

基本問題である。郡国制は前漢高祖が採用した統治方式である。

設問 3 (問題難易度C)

まず地図中のA (平壤=高句麗の都)、B (開城=高麗の都)、C (漢城=李朝の都)、D (慶州=新羅の都)、E (釜山) がわからないと解けない。さらに「日本列島の銀が大量に中国に流入した」時期は、勘合貿易 (日明貿易) であったことを想起して、明代の朝鮮が李朝であることを導く。一問一答的な暗

Benesse® お茶の水ゼミナール

記だけでは太刀打ちできない難問である。

設問4 (問題難易度B)

選択肢1: 王建は高麗の建国者。したがって地図A・Cとは直接関係ない。

選択肢2: 金日成は朝鮮民主主義人民共和国(北朝鮮)を成立させた政治家。

北朝鮮の首都はピョンヤン(平壤)である。

選択肢3: 大祚榮は渤海の建国者。渤海の首都は上京竜泉府(現中国黒竜江省)である。

したがって地図A・Cとは直接関係ない。

選択肢4: 衛満は衛氏朝鮮の建国者。衛氏朝鮮の都は王陰城(平壤)でマニアックであるが、前漢武帝が衛氏朝鮮を滅ぼし、平壤付近に楽浪郡を設置したことから類推できる。

選択肢5: 李成桂は李朝朝鮮(李氏朝鮮・朝鮮王朝)の建国者。李朝の都は漢城(現ソウル)。

設問5 (問題難易度B)

B(開城=高麗の都)であるから、高麗(918~1392年)と併存しない国を1つ選ぶ。しかし、吐蕃(7~9世紀)・ヴァルダナ朝(7世紀前半)のどちらも該当する。選択肢3・選択肢5が正解となるであろう。

設問6 (問題難易度B)

新羅(D=慶州が都)と対立し、日本とは交渉があった国は渤海。正解は上京竜泉府。上記の設問4と重複する内容である。今年度は上京竜泉府(用語集頻度⑧)を知らないといふと2問は解答できないということになる。

設問7 (問題難易度A)

地図Eは半島南端、そして百済・新羅時代で日本と関連深いことから加羅(加耶・任那)。

【IV】

| | |
|--------------------------------------|-----------------|
| 予想配点 5 / 50点 | 時間配分の目安 6 / 60分 |
| 出題分野・テーマ イスラーム史(ウマイヤ朝~アッバース朝、後ウマイヤ朝) | |

●小問別難易度&解答のポイント等 ※問題難易度: C難問、B可否を分ける問題、A正答すべき問題、を示す
設問1 (問題難易度A)

基本問題。ウマイヤ朝の建国者はムアウィヤである。

設問2 (問題難易度A)

同じく基本問題。早稲田に合格したいなら、両問とも即答できる基礎力が必要である。

設問3 (問題難易度A)

基本問題。選択肢ハ(グラナダ)とともに、地図で場所を確認しておこう。

設問4 (問題難易度A)

正解はアブド=アッラフマーン3世。用語集では頻度②とややマニアックだが、早慶クラス在籍のお茶ゼミ生には、是非解答してほしい。

設問5 (問題難易度A)

各用語の意味を理解していれば解ける。アミールは軍隊司令官・総督、ワズィールはアッバース朝の宰相、イマームはシーア派での最高指導者、ウラマーはイスラームの学者である。

【V】

| | |
|--------------------------------------|-----------------|
| 予想配点 6 / 50点 | 時間配分の目安 6 / 60分 |
| 出題分野・テーマ 中世ヨーロッパ史(ノルマン人、十字軍、商業ルネサンス) | |

Benesse お茶の水ゼミナール

●小問別難易度&解答のポイント等 ※問題難易度：C難問、B 合否を分ける問題、A 正答すべき問題、を示す

設問 1 (問題難易度 A)

地中海地域に成立したノルマン人国家なのだから、両シチリア王国である。

設問 2 (問題難易度 A)

基本問題。即答すべき問題。

設問 3 (問題難易度 A)

これも基本中の基本。

設問 4 (問題難易度 C)

コルドバ (後ウマイヤ朝の都)、グラナダ (ナスル朝の都) を解答しがちである。しかし、十字軍時代の 12~13 世紀に、西欧へのイスラーム文化移入の拠点となったのはトレドである。ちなみに、この地はかつて西ゴート王国の都であった。場所を地図で確認しておこう。

設問 5 (問題難易度 A)

基本問題。確実に得点すべき問題。

設問 6 (問題難易度 A)

「大市」つまり定期市で有名なのはシャンパーニュ地方。これも基本問題である。

【VI】

| | |
|---------------------------------|-------------------|
| 予想配点 11 / 50 点 | 時間配分の目安 16 / 60 分 |
| 出題分野・テーマ 中国王朝と北方民族関連史 (論述問題を含む) | |

●小問別難易度&解答のポイント等 ※問題難易度：C難問、B 合否を分ける問題、A 正答すべき問題、を示す

設問 1 (問題難易度 B)

長城の修築をおこなった明の皇帝は永楽帝である。したがって正解は選択肢 2。

選択肢 1 : 5 回のモンゴル親征を行った。

選択肢 3 : 鄭和に命じて南海遠征を行った。

選択肢 4 : ベトナム (大越国) は、陳朝滅亡後~黎朝成立まで永楽帝が一時支配した。

設問 2 (問題難易度 B)

戦国時代の始まりが、晋の三分裂、つまり趙・魏・韓の成立であることを想起できればよい。

設問 3 (問題難易度 A)

「靖難の役」は燕王朱棣 (のちの永楽帝) が起こし、建文帝から帝位を篡奪した反乱。これを「靖康の変 (金が北宋を滅ぼした事件)」と混同すると誤答する可能性がある。

設問 4 (問題難易度 B)

34 字という字数制限で簡潔にまとめられるかがポイント。指定語の「農耕民」から南面官を、「北面官」からは遊牧民を導く。また「二重統治」の内容、つまり「農耕民」には州権制を、遊牧民には部族制をとったことを書き込むこと。

設問 5 (問題難易度 A)

選択肢 3 の「清明上河図」は開封 (北宋の都) を描いたもの。この絵巻も資料として有名であるから、教科書・資料で確認しておこう。

設問 6 (問題難易度 C)

選択肢 3 はまず落とせる。次に選択肢 2 は、遼と結んだ澶淵の盟 (1004 年) →西夏と結んだ慶曆の和約 (1044 年) だから、「倣った」が誤り。ここまでは絞り込めない。あとは、澶淵の盟締結時の宋 (真宗) と遼 (聖宗) をおさえていたかどうか。両者ともにマニアックな知識だ。また、選択肢 4 は澶淵の場所までわかってないとならない。正しくは北京の南西にある。

Benesse® お茶の水ゼミナール

設問 7 (問題難易度 B)

やや難問かと思ったが、今年度早稲田文学部を受験した先輩たちは解答できていた。冬期講習(中国史講座)で学習したことをきちんと復習していたと思われる。

選択肢 1 : このような事実はない。

選択肢 3 : 北宋は燕雲十六州の自治を獲得していない。

選択肢 4 : 宋代、日本は中国に朝貢の形式をとっていない。

設問 8 (問題難易度 A)

基本問題である。ネルチンスク条約(1689年)は康熙帝とピョートル1世が締結した。

設問 9 (問題難易度 A)

基本問題である。ロシアが沿海州を獲得した1860年の北京条約が正解。地図も確認しておこう。

【Ⅶ】

| | |
|-------------------------|-----------------|
| 予想配点 4 / 50点 | 時間配分の目安 5 / 60分 |
| 出題分野・テーマ イギリスのテューダー朝関連史 | |

●小問別難易度&解答のポイント等 ※問題難易度：C難問、B可否を分ける問題、A正答すべき問題、を示す

設問 1 (問題難易度 A)

たとえニュートンの活動時期(17世紀後半～18世紀前半、ほぼステュアート朝期)を思いつかなくても、消去法で容易に解けなければダメだ。

設問 2 (問題難易度 A)

選択肢ニ：イギリス東インド会社の廃止は1858年、シパーヒーの乱が原因である。

設問 3 (問題難易度 B)

正解は私拿捕船(私掠船)。ここは漢字できちんと書けるかどうか分かれ目となる。

設問 4 (問題難易度 B)

ややマニアック。正解はドレイクである。文中に「世界周航を果たした」とあるから、ホーキンスではない。もちろん、イギリス人だからマゼランでもない。

【Ⅷ】

| | |
|-------------------------|-----------------|
| 予想配点 4 / 50点 | 時間配分の目安 5 / 60分 |
| 出題分野・テーマ 冷戦、EC・EUに関する問題 | |

●小問別難易度&解答のポイント等 ※問題難易度：C難問、B可否を分ける問題、A正答すべき問題、を示す

設問 1 (問題難易度 A)

トルーマン=ドクトリンが冷戦の始まりだとわかっているならば、解答できる。ただし、重要な事項・事件ばかりなので、年号は覚えていた方がよい。

トルーマン=ドクトリン(1947年3月)、コミンフォルム結成(1947年9月)、ベルリンの壁構築(1961年)、キューバ危機(1962年)である。

設問 2 (問題難易度 C)

時事的な問題であるし、選択肢の正誤判定もまぎらわしい。なかなか現役生には難しいだろう。

選択肢イ：シューマンは、首相ではなく外相であった。

選択肢ロ：アデナウアーは、社会民主党ではなくキリスト教民主同盟の党首である。

選択肢ハ：イギリスのEC加盟は、サッチャー保守党政権ではなくヒース保守党政権である。

設問 3 (問題難易度 A)

Benesse® お茶の水ゼミナール

基本問題である。正解はマーストリヒト。ちなみにオランダの都市である。

設問4（問題難易度C）

時事的な問題。教科書だけではおさえられない。お茶ゼミの授業では9月に学習する。